

第19回日本在宅薬学会学術大会

展示レポート

今後も各地域で ブース出展を

総務室長 新関 多津弥



2026年(令和8年)7月19日(日)、20日(月・祝)、大阪府大阪市のグランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)で、第19回日本在宅薬学会学術大会が「薬局DXで実現する外来・在宅・OTC～これからの薬局の3本柱～」をテーマに開催されました。昨年の初出展に引き続き、協励会として今年もブースを出展しました。昨年は八田三紀副会長のお誘いにより、本大会の主催者で(一社)日本在宅薬学会理事長である狭間研至先生に入会していただくといううれしいご縁も生まれました。

協励会のブースのテーマは「2040年を見すえた経営とOTC」です。ブースにはたくさんの選定品の空箱を並べ、ブース前では(株)生存環境科学研究所の生環研のルテインGMを配布しました。なかでもミラグレン錠をご存じの方、興味を持たれている方が多く、足を止めて説明を聞いていただくきっかけにもなりました。一方で「ミラグレン錠やルテインは知っているけれど協励会は知らない」という方も多く、協励会入会のメリット、選定品の魅力、仲間の団結力、そして出席単位や会費の件、準会員からの

入会制度などについても説明させていただきました。

大会初日のお昼には、展示ブースの横で「漢方カフェ」と称し、出展していたOTCメーカーが商品説明をする時間があり、私たちも協励会を紹介する機会をいただきました。説明後にブースを訪れ名刺交換をしていただいた方先着50名様に、生存環境科学研究所の岡本祥武社長からご提供いただいた「Vエイドパン」をプレゼントする特典をつけたところ大盛況となり、ブースが大混雑しました。そのとき本学術大会に出席されていた、田村憲胤常任理事、広本篤中国合同支部長、茨城・ビッグママあこ薬局の根田滋先生、愛知名古屋・うばこやま調剤薬局の長田光代先生が何も言わずにお手伝いしてくださいました。本当にありがとうございました。また東京北・あゆみ薬局の小川光一先生からは差し入れもいただきました。こうした仲間の絆も協励会の大きな魅力だと、改めて感じる場面となりました。

二日目は佐野友紀広報委員にもブースに立っていただきました。初日

に比べると静かでしたが、その分一人ひとりに時間をかけて説明することができました。これから薬局に就職予定の学生にもお立ち寄りいただき、OTCの魅力、コミュニケーションの大切さなどを佐野委員から熱心に伝えていただきました。将来はきっと生環研のルテインGMの味や佐野委員の言葉をふと思い出し、協励会員になっていただけることを願ってやみません。そして早朝からの準備や参加者の対応、後片付けまで立ちっ放しで尽力してくださった協励会事務局の鎌田萌さんにもたいへんお世話になりました。

このように多くの皆さまの協力により、今回は去年の倍の50名以上の方々と名刺交換をすることができ、現在は会員増加室にバトンタッチし、随時詳しい資料を送っていただいています。今回のようなブースは全国規模の学術大会だけでなく、各地区でも出展が可能です。今回の反省点なども共有しながら、一人でも多くの仲間を増やせるように仲間同士が力を合わせて取り組んでいきたいと思います。



漢方カフェにて選定品の商品説明をする



ブースで協励会の活動をアピール